



かわごえ



# 民児協だより

〔第75号〕

平成30年10月発行

川越市民生委員児童委員協議会連合会広報部会／川越市小仙波町 2-50-2 川越市社会福祉協議会内 ☎049(225)5703・FAX049(226)7666



## それぞれに彩り映ゆる夕紅葉

暑い日の続いた夏、十月になり少し涼しさを感じられるようになってきました。写真は昨年撮ったものですが、一足早い紅葉をお届け致します。

撮影者 鈴木 宏志氏

## 全員研修会に

### 参加して

テーマ

二〇一五年に向けての

「地域支え合い」を考える

講師 近所クリエイター

酒井 保氏

七月二日、酒井保氏をお招きしての講演は、「川越は美人が多いと聞き楽しみにして来ました」と、和やかなトークで始まりました。

二〇〇〇年から開始した本人の自立支援のための介護保険制度。調査では制度を使わないと損した気持ちになり、介護依存した結果、今までできていたことができなくなり、重度化した例もあるそうです。

▼地域の支え合いについて  
支え合いの基準が「サロン」「配食」「見守り」といった支える側のみの事業になっていないか、とのご指摘がありました。支え合う地域づくりのためには、支えられることも学ばなくては、と気づかされました。  
▼制度が壊す絆について



ある町のサロンでは、デイサービスに通うようになった〇〇さんに対して、サロンにはもう来ないだろうと、地域とのつながりが切られ、関心がなくなってしまった。そこで「〇〇さんどうしたのかな」と気になる思いから見守り・見守られ活動が始まる。お互いの暮らしぶりに関心を持ち、「向こう三軒両隣」の精神で、近所で声をかけあつていくことが大切だということでした。

最後に、皆さんに広めてほしい三つの言葉を挙げられました。①社会性がある(人間関係・つながり)②毎日よく動く③肉料理を食べる。これらは、フレイル(虚弱)予防で健康長寿の秘訣だそうです。

いつかは自分も支援される立場になる時が必ずやってきます。どのお話も大変印象深いものでした。

# 各部会の活動紹介

## 生活福祉部会



生活福祉部会は輪番制で定例会の司会を務める運営を行っています。

複雑で多様化している福祉課題が山積している中、部会では基本制度や様々な障害や経済的困窮を抱えて生活しておられる地域住民に、民生委員・児童委員としてどのように寄り添えるのかを学習しています。

また、毎年三月に行われる社協ボランティアセンター主催の地域交流会「みんな一緒にわいわいタイム」に参加し、障害者・園児とゲームや音楽を楽しみながら部会員相互の融和をはかっています。

今年度も部会以外の民生

委員・児童委員の方にも参加していただく拡大学習会を七月に開催し、視覚障害当事者による日常生活や盲導犬についての講話で、障害がある事の困難について、健常者がどのようなサポートが適切なのか、参加された委員と共有できました。

十一月の拡大学習会は、全国で推計三七八万人発症している現役世代の「若年性認知症」について埼玉県若年性認知症支援コーディネーター・松本氏から講演をいただきました。

また、視察研修を通して社会資源を学び地域貢献の質の向上を図っています。

## 児童福祉部会



児童福祉部会活動も、今期二年目に入り、すでに沢山のことを学びました。

虐待の現状を知り、障害者を支援することで就労に繋げられること。

警察の方からは、活動中連絡が必要になった時の連絡先など。

視察先は、子どもの貧困を支援する「ひだまり」。また川越市児童センターでは、プラネタリウムを観ました。

教室と廊下を隔てる壁の無い開放的な月越小学校、障害者が懸命に働く作業所、初犯の子達が多い川越少年刑務所など、民生委員・児童委員を引き受けたからこそ多岐にわたり知り得たのです。

意見交換の場では、活動中に感じた疑問など、我が身に置き換えみんなまで話し合いました。

地区の活動の発表では「川越は広い」を実感すると同時に、地区と委員の顔と名前も覚えられるようになってきました。

そして、部会員が一致団結して取り組むのが、ふれ

あい福祉まつりのおもちゃ作りです。割り箸鉄砲、ペットボトルけん玉、輪投げ、紙飛行機等子どもたちの喜ぶ姿を思い描いて作ります。

## 主任児童委員部会



当部会では、四十二名の委員が毎月一回全員で顔を合わせます。部会に与えられた役割は、お子さんの健全やかな成長に寄与できると、親御さんの悩み事に寄り添って解決の道を模索することにありと思っています。

虐待、貧困などで辛い思いをしている子どもたちがいます。家の外からは見え

にくく、またとてもデリケートな問題であるために、私達委員はどのような対応を進めればよいのか、何をどのようにできるのかと、自問自答の繰り返しです。

情報を集め、共有し、少しでもよりよく対応できるように、個別の事例に活用実践できるための経験値を蓄えることが求められます。現場に詳しい専門の先生方の意見を伺い、実践対応の事例などを学びながら、自身が成長することも大切な役割だと考えます。

恒例のイベント等で、小さなお子さんやそのご家族にお会いできるのは、とても嬉しい機会になっています。

社協の一員として大きく背中を押していただき、関係機関との連絡、連携の輪も広がってきたと実感できる今日この頃です。



高 齢 福 祉 部 会



今夏、記録的な猛暑のなか七十八歳ボランティア男性の清々しい話題に元気づけられた方は多いのではないのでしょうか。

団塊世代が後期高齢者となる二〇二五年には、国民の三人に一人が六十五歳以上、五人に一人が七十五歳以上の超高齢社会を迎えます。また現在、軽度ものを含めれば、少なくとも八二〇万人が認知症を患っているという厚労省データもあり、今の一・五倍の一二〇〇万人以上が認知症になってもおかしくないといわれています。こうした現状を踏まえて、高齢福祉部



会では、転倒防止と認知症予防には川越市推奨の「いもっこ体操」が一番とらえ、その実施を推進していきたいと考えています。すでに実施している地区の具休例を参考に、楽しめるストレッチや余興も取り入れ、参加者が楽しく誘い合い、しつかり継続できるコミュニケーションづくりをめざしたいと思います。「ピンピンきらり」をテーマに、メンバー全員でさまざまな知恵を出し合い、健康寿命を延ばす一助になればと考えています。また高齢部会では「備えあれば憂いなし」の一環として防災施設や介護施設の視察研修も行っています。

男 女 共 同 参 画 推 進 部 会



男女共同参画推進部会（以後参画部会）は全部会と関わり、各部会への提言を行い、民生委員・児童委員活動の向上推進を目標にしています。なかなか高い雲、高い山です。

川越市役所にも男女共同参画課があり、県民児協にも、参画部会があります。私達は、市民児協の参画部会として県民児協の参画部会に参加しています。今年七月二十日に、市民部の男女共同参画課の方から、「川越市配偶者暴力相談支援センターの役割について」学習しました。

ご自身で声を上げる事が出来ない案件なので、何回も勉強会を重ねて、各部会の方々の懇談を重ねていきたいと思っています。

任期もあと一年余り、私達参画部会が当部会的事を理解し、各部会の方々と懇談を重ねて各部会に提案出来るように勉強しなければと感じました。

また、拡大勉強会を予定しています。日時は十月十三日、会場は総合福祉センター、三階の社会適応訓練室、部員五十名位で行います。

**持病もち**  
お薬手帳が  
マイカルテ

新潟県中越大震災  
教訓格言集より

生きがい訪問

● 第八地区 ●

愛川比沙子さん



この世に生をうけたからには、「あー楽しかった」といつて死にたい。それには生きがいをみつけないとかならない。忙しく暮らしているときには何も考えず一日一日が無事終わるとホッとして、仏壇の前にすわって「ありがとうございしました」といつてから寝る。アツというまに八十二年がすぎた。長生きは辛いです。さてさてこれからの私の生きがいはお茶(茶道)を



続けることである。今の所正座もできるし、弟子もきてくれるし、茶会もいろいろあるのでうれしい。欲をいえばあと十年(??)やりたい。

もう一つもつと生きがいにしてることを忘れていた。小さい子どもたちと遊ぶことである。「子育て応援団ひろば」をつくって二十数年、毎週金曜日の午前中に母子で自治会館にきてくれるのがうれしい。楽しい。時には育児の相談にものったり。我ながら子ども好きだと思ふ。会うたびに少しずつ成長していく子どもたち、逆に少しずつおとろえていく私。人生って不思議くですね。民生委員・児童委員になったこと

で、地域で活動でき大勢の方々と知り合えて生きがいをみつけれられたことに感謝くです。もう少し活動させてください。よろしくお願ひいたします。

あの日から  
ライト・スリッパ  
枕元

新潟県中越地震

教訓格言集より

● 高階地区 ●

宮澤 秀考さん



私は今年六月に八十三歳の誕生日を迎えました。



六十二歳で定年、すぐに寺尾第二自治会の副会長として九年、その後寺尾長生会(老人会)会長として九年、大過なく忙しく過ごしてきました。その間、自身自身の生きがいとして、埼玉県いきがいがい大学川越校へ入学、いろいろなことを学びました。特にパソコンを初歩から学び何とか決算表もつくれるようになったことが一番嬉しいことです。卒業後の校友会の役員も引き受け、今も続いているハイキング部と史跡巡りクラブに所属し、月二回リュックを背負って歩き廻っています。

三年ほど前、急に足が浮腫み歩けなくなり(注)RS3PE症候群という難病にかかってしまいました。良薬に恵まれ、薬を飲んでる限り普通に生活出来る事に

感謝しています。

昭和二十年三月十日の東京大空襲で家を焼き出され、父親も亡くし長野県に疎開し、裸足で新聞配達をしたり、やぎの乳をしぼり、売り歩いたり、口では表せない苦労をしましたが、今は毎朝五時起床、コップ三杯の水を飲み調整池を散歩し、グラウンドゴルフに月六回参加し、家庭菜園を耕し、草取りし、無農薬野菜を毎日沢山食べている事が元気の源となつていふと思ひます。



(注) RS3PE症候群とは、突然に手足の浮腫が起り、足の甲に炎症・疼痛がのこる合併症もある難病とされている



地域の活動紹介

第十一地区

鬼形ちづ子

美しい季節と楽しい催し



第十一地区は川越駅西口から南へ2kmに位置する新市街です。「ウエスタ川越」が三年前にオープン、セミナーやイベントなど多くの人々が利用しています。しかし、高齢者が気楽に通うには近くの自治会館での活動を望まれています。新宿町六丁目は世帯数も多く若い家族も増えましたが、高齢者が多いのも現実です。それぞれの世帯に見合う行事を増やしながらコミュニケーションの確立を目指しています。年間を通して「いもっこ体操」の他に、春は年々盛んに



なってきた雀ノ森氷川神社のお花見。夏は町内の公園で納涼大会。模擬店や福引、盆踊り、老若男女・子どもたち八〇〇名を超える参加で賑わいます。秋は川越まつり、地域ふれあいまつり、芋ほり大会。冬は餅つき大会。年度末の三月は会館まつり。これは毎月定期的に習練を重ねた同好会の水墨画、水彩画、手作り会、踊りの会、体操の会、カラオケの会等の会員の発表会です。作品を展示した会場で体験コーナーや喫茶コーナーがあり、一日楽しく過ごして頂きます。二十九年度は一〇〇名を超える方々が体験などに参加されました。これからも自治会と民生委員・児童委員が協力し、住みやすい町づくりの為に取り組んでいきたいと思えます。

南古谷地区

江尻 旬子

南古谷いきいきサロン

南古谷地区は、川越市でも東の外れにあり、南古谷駅があるので人口の増加が進んでおります。



二十七自治会があり、いきいきサロンも今、十三自治会で行われるまでになりました。各自治会の公民館を起点とし「地域包括支援センターよしの」の協力を受け、介護予防サポーター、民生委員・児童委員、保健推進員のお手伝いをいただき、一時間三十分から二時間のサロンが始まります。



介護予防サポーターによる

「いもっこ体操」を主体に各地域で色々な工夫を行っております。体操を二時間程行う所もあれば、ラジオ体操やリズム体操を取り入れたり、その他に折り紙・脳トレ・ちぎり絵・薬の飲み方・押し花・交通安全講話等カリキュラムを考え、老化予防に取り組んでおります。

地区社協の支援を受けており、十三地域で行われているサロンが月一回ですので、いきいきサロンの行われている、どの公民館に参加しても良い事になっております。その為に参加費百円を頂いて、参加しやすくしております。多い人では三から四ヶ所に出席している方もおられます。

これからも南古谷地域が元気で、健康寿命が延びる事を願っております。

居住者カード回収活動

回収率アップ

山田地区民児協



地域の実情を把握する資料として、居住者カード配布・回収活動が七月に行われました。

昨年度定例会で、今年度に予定された居住者カード活動に対して現行カードの修正を含め市福祉推進課に要望し、この要望が今回のカードに反映されたと思えます。

七月、各地区自治会の協力を得て配布・回収を進めてきました。その結果九〇%を超える回収率を記録することができました。

三年前は九〇%未満でしたが、今回は自治会の協力に加え「公民館だより」への協力要請文掲載が回収率向上につながったものと総括しています。

# 地区民児協だより

霞ヶ関地区

宮坂 厚郎



霞ヶ関地区民児協は川越市の西部に位置し、南に入間川と北に小畔川に挟まれ緑地や水辺に恵まれた自然環境豊かな地域です。近年は地区西部や駅（川越線・東武東上線）周辺は人口増加の著しい地域です。当民児協は二十三自治会、小学校五校、中学校四校があり（一部、他民協と重複）総人口三二、四四六人、世帯数一三、三八七戸、高齢化率二十四・五四％を三十九名の民生委員・児童委員と

二名の主任児童委員の計四十一名で担当、活動しています。定例会は毎月、原則第三月曜日に開催。連絡事項の徹底・部会報告・事例発表とその対応策等の意見交換を行い、全員がその後の活動に活かせるよう共通認識を持つようになっています。民児協が主体となつて実施している、一人暮らしの高齢者を対象とした月一回の昼食会「ぎんれい」と月二回の見守り活動を兼ねた配食サービス「やまぶき」と共に三十二年間続き、特に「ぎんれい」の昼食後の余興はプロ顔負けのボランティアの参加もあり、参加者の大きな楽しみになっています。また、地域包括支援センターと連携した「まるごとネット」にも毎月、多くの委員が参加し、日頃の問題解決に役立っています。従来からの健康体操を取り入れた「いもっこ体操」も先輩や現民生委員・児童委員が参加し、十七自治会で実施しています。毎年、夏休み中には小学生ラジオ体操への積極的参加、

民児協のPR（民児協ベスト着用）を兼ねた防犯パトロールを全員で行い住民からの声掛けもあり励みになっています。地区社協と連携した交通教室（小学生く高齢者）への参加、中学校・同PTAの若い親御さんとの地区懇談会などへの参加は年の功もあり世代を超えて期待されています。また、的場上地区では自治会の協力もあり、世代間交流の一環として、小学生から高齢者を対象にした料理教室を立ち上げるなど参加者から好評を得ています。今後も支会や他団体とも連携を密にして多くの課題に取り組みたいと思います。



川越市社会福祉協議会のホームページに「民児協だより」が掲載されています

川越市社会福祉協議会ホームページ

左側のメニューから「福祉団体」をクリック

市民児連の「民児協だより」の名号をクリック

川越市社協 検索

### 主な市民児連活動予定

- 十月一日く 赤い羽根共同募金への協力
- 十月二・三日 地区民児協 正副会長研修
- 十月十一日 歳末たすけあい運動 援護対象者申請 締め切り
- 十月二十六日 川越市社会福祉大会
- 十一月三日 在宅障害児招待事業
- 十一月五日 理事会
- 十一月二十二日 全国社会福祉大会
- 十二月三日 理事会
- 十二月中旬 歳末たすけあい運動 援護金伝達
- 一月十七日 地区民児協正副会長及び 部会長新年懇親会



## 時の鐘

平成最後の今年の夏は、真夏日と猛暑日の連続で、健康な人でも、命の危険を感じた方も多かったのではないのでしょうか。大東地区では、三年前から、友愛訪問活動の一環として、小江戸川越の水をお配りして、安否確認の実施をしているところです。この水は、その昔川越城下の浮島神社近辺に、泉があり清冽な水が湧き出ていました。鷹狩りに来た家康公に、その水で点てたお茶を差し上げたところ、その美味しさに驚かれ、たいそう喜ばれたそうです。その川越の水で、高齢者の方も元気になります。七十五号の編集担当者は、伊東正晃・齋藤博和・宮崎富美子・羽鳥直儀・神山裕一・西村喜代次・安田桃子・久保田緑です。